

東北地方 1か月予報

(8月19日から9月18日までの天候見通し)

平成18年8月18日
仙台管区气象台発表

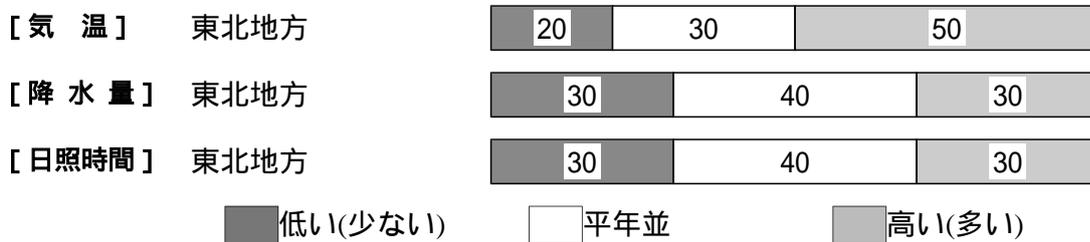
<予想される向こう1か月の天候>

期間の前半は、高気圧に覆われて晴れの日がありますが、前線や気圧の谷の影響を受けて、平年に比べて曇りや雨の日が多いでしょう。期間の後半は、天気は数日の周期で変化し、平年に比べて晴れの日が多いでしょう。

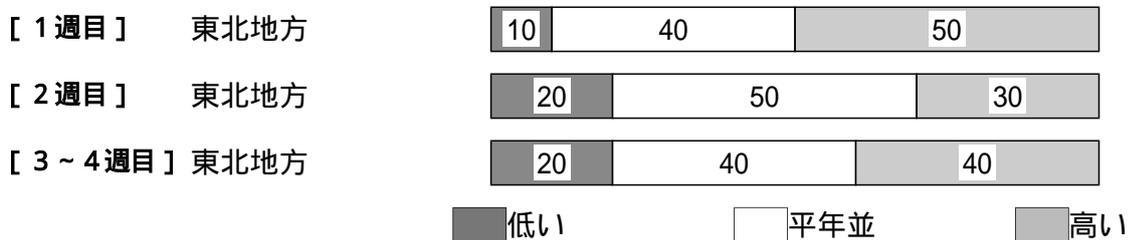
向こう1か月の平均気温は東北地方で高い、降水量は東北地方で平年並、日照時間は東北地方で平年並でしょう。

週別の気温は、1週目は東北地方で高い、2週目は東北地方で平年並、3～4週目は東北地方で平年並か高いでしょう。

<向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)>



<気温経過の各階級の確率(%)>



<予報の対象期間>

1か月 : 8月19日(土)～9月18日(月)
1週目 : 8月19日(土)～8月25日(金)
2週目 : 8月26日(土)～9月1日(金)
3～4週目 : 9月2日(土)～9月15日(金)

<次回発表予定等>

1か月予報 : 毎週金曜日 14時30分 次回は8月25日
3か月予報 : 8月24日(木) 14時

<参考資料（平年並の範囲等）>

(1) 30年平均値（向こう1か月の平均気温、降水量、日照時間と1週目、2週目、3～4週目の平均気温）

	気温 ()	降水量 (mm)	日照時間 (時間)	気温()		
				1週目	2週目	3～4週目
青森	21.0	139.5	172.5	22.6	21.9	20.2
深浦	21.1	181.4	168.5	22.8	22.1	20.3
むつ	19.8	178.9	142.6	21.3	20.7	19.1
八戸	20.5	184.4	150.9	22.0	21.3	19.8
秋田	22.2	200.9	175.7	24.3	23.3	21.3
盛岡	20.7	191.0	133.1	22.8	21.8	19.8
大船渡	21.2	236.7	130.9	22.8	22.1	20.5
宮古	20.5	225.6	135.6	22.0	21.4	19.7
仙台	22.3	210.7	129.9	23.8	23.2	21.5
石巻	21.8	160.6	148.6	23.3	22.7	21.1
山形	22.2	156.2	151.1	24.3	23.4	21.2
新庄	21.5	172.6	138.1	23.6	22.6	20.6
酒田	22.7	204.7	175.6	24.6	23.7	21.8
福島	23.0	169.4	129.8	24.9	24.1	22.2
若松	22.5	138.9	159.2	24.5	23.7	21.5
白河	21.3	251.4	128.5	23.0	22.4	20.5
小名浜	22.9	182.8	162.7	24.0	23.7	22.4

なお、気温、降水量、日照時間の「平年並」の範囲は、地点ごとに幾分違いはありますが、下に示した地域平均の「平年並」の範囲を参考にして下さい。

(2) 1971～2000年のデータに基づいた向こう1か月地域平均の気温、降水量、日照時間の平年差(比)の「平年並」の範囲は次のとおりです。

	気温平年差()	降水量平年比(%)	日照時間平年比(%)
東北地方	-0.4～+0.4	83～117	93～106
東北日本海側	-0.5～+0.6	84～109	92～107
東北太平洋側	-0.3～+0.3	79～120	89～108

(3) この予報期間の1週目、2週目、3～4週目の地域平均の気温平年差の「平年並」の範囲は次のとおりです。

	1週目	2週目	3～4週目
東北地方	-0.5～+0.8	-0.6～+0.7	-0.5～+0.7
東北日本海側	-0.5～+0.8	-0.7～+0.7	-0.6～+0.7
東北太平洋側	-0.5～+0.8	-0.6～+0.8	-0.5～+0.7

<参考資料（利用上の注意）>

(1) 気温(降水量)等は、「低い(少ない)」「平年並」「高い(多い)」の3つの階級で予報します。階級の幅は、1971～2000年の30年間における各階級の出現率が等分(それぞれ33%)となるように決めてあります(気候的出現率と呼びます)。

(2) 予報する確率の数值は、それぞれの階級が出現する可能性の大きさを表しています。予測資料の信頼性が大きい場合には気候的出現率から大きく隔たった10%以下や60%以上の確率を付けられますが、特定の階級を強調できない場合には気候的出現率と同じかそれと同程度(30%、40%)の確率しか付けられません。

(3) 晴れや雨などの天気日数は、平年の日数よりも多い(少ない)場合は「平年に比べて多い(少ない)」、また平年の日数と同程度に多い(少ない)場合には「平年と同様に多い(少ない)」と表現します。なお、単に多い(少ない)と表現した場合には対象期間の2分の1より多い(少ない)ことを意味します。

東北地方 1か月予報解説資料

平成 18 年 8 月 18 日 仙台管区気象台

1. 出現の可能性が最も大きい天候

向こう1か月（8月19日～9月18日）：

期間の前半は、高気圧に覆われて晴れの日がありますが、前線や気圧の谷の影響を受けて、平年に比べて曇りや雨の日が多いでしょう。期間の後半は、天気は数日の周期で変化し、平年に比べて晴れの日が多いでしょう。

平均気温は高いでしょう。

1週目（8月19日～8月25日）：

期間の初めと終わりには、気圧の谷や湿った気流の影響で曇りの日がありますが、その他は高気圧に覆われて晴れの日が多いでしょう。

平均気温は高いでしょう。

2週目（8月26日～9月1日）：

高気圧に覆われて晴れの日がありますが、前線や気圧の谷の影響を受けて、平年に比べて曇りや雨の日が多いでしょう。

平均気温は平年並でしょう。

3～4週目（9月2日～9月15日）：

天気は数日の周期で変化し、平年に比べて晴れの日が多いでしょう。

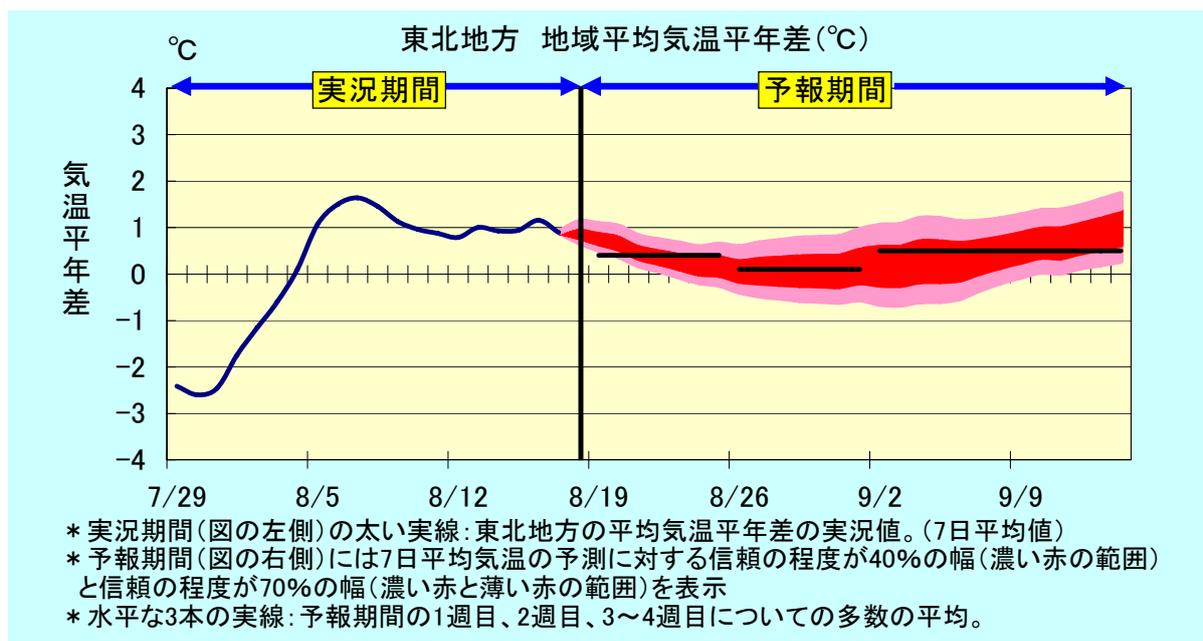
平均気温は平年並か高いでしょう。

平年の晴れ日数

	向こう28日間	1週目	2週目	3～4週目
東北日本海側	14.5日	4.1日	3.8日	6.6日
東北太平洋側	12.3日	3.5日	3.2日	5.6日

2. 東北地方の平均気温平年差の実況と数値予報による予測

数値予報による週別の気温は、1週目、2週目、3～4週目共に「平年並」と予測している。予報は、その他の資料から、1週目を「高い」、3～4週目を「平年並か高い」とする。なお、数値予報の信頼度は小さい。

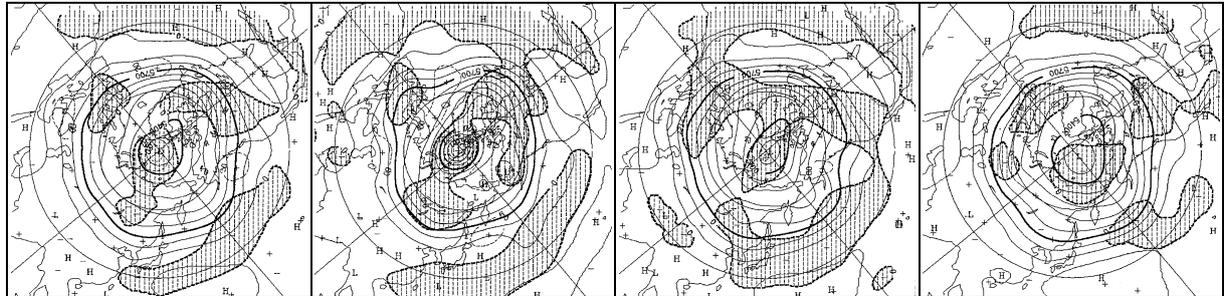


3. 数値予報（アンサンブル平均天気図）による大気の流れの予想

500hPa 高度と偏差：

月平均では、極付近が負偏差でそれを取り囲むように高緯度帯は概ね正偏差。日本付近は西谷傾向で概ね正偏差であるが、九州から太平洋上にかけての北緯30度帯は負偏差。

1週目は、日本の東海上には高気圧があり、やや西谷傾向。千島近海に正偏差があり、北日本及び東日本は正偏差。西日本以南から太平洋上は帯状に負偏差となる。2週目は、高度場が下がり日本付近は負偏差。日本の南東海上には亜熱帯高気圧が広がる。3~4週目は、亜熱帯高気圧が日本付近に張り出す。日本付近の偏西風の流れは南下して東西流型となるが、やや西谷傾向で広く正偏差となる。



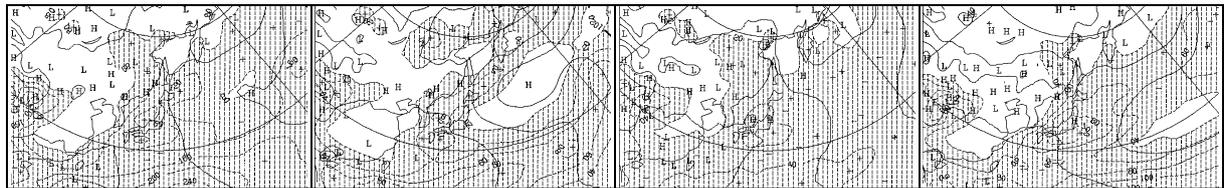
500 hPa 高度予想図（左から）1か月平均、1週目平均、2週目平均、3~4週目平均

実線：等高度線（間隔 60m）、点線：平年差（間隔は1か月 30m、週別 60m）、陰影部：負偏差域（一般に寒気に対応）

地上気圧と降水量：

月平均では、日本の太平洋側が高圧部、南西諸島以南は低圧部となる。日本の南海上には熱帯の擾乱に対応するものと思われる降水域があり、日本付近にも明瞭な降水域がかかる。

1週目は、千島の東海上に中心を持つ高気圧が北海道付近までかかる。明瞭な降水域は西日本から日本海をとって北海道までかかる。2週目は、太平洋高気圧が日本の南東海上に張り出す。降水域は日本の南海上と東北地方を含む本州付近にかかる。3~4週目は、太平洋高気圧が日本の南海上に張り出し、日本付近を覆う。日本付近には本州南岸を中心に降水域がかかる。



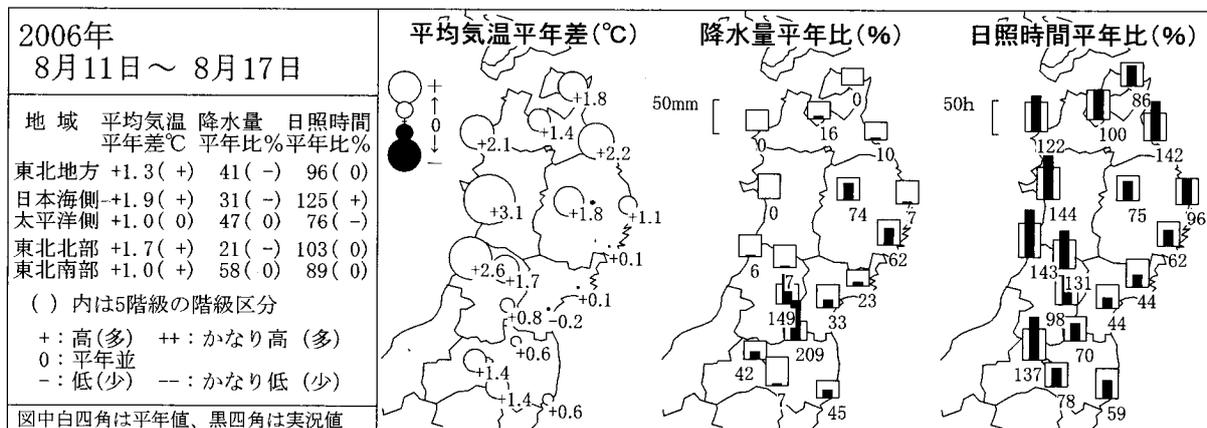
地上予想天気図（左から）1か月平均 1週目平均 2週目平均 3~4週目平均

実線：等圧線（間隔 4hPa）、陰影部：降水域（1か月 80mm 以上、1週目・2週目 20mm 以上、3~4週目 40mm 以上）

4. 最近1週間（8月11日~8月17日）の天候の経過

この期間、日本の南海上にあった台風第10号の影響により、東北太平洋側南部では曇りの日が多く、東北日本海側では晴れの日が多かった。期間の前半は上空に寒気が入り込んだため大気の状態が不安定となり山形県では降ひょうにより農作物への被害があった。期間の後半は、日本の南海上をゆっくり進んだ台風第10号の影響により暖かく湿った空気が入り込み、東北日本海側を中心にフェーン現象が顕著にみられ、日最高気温が35℃以上を観測するところもあった。

平均気温は東北日本海側で高く、東北太平洋側で平年並。降水量は東北北部で少なく、東北南部で平年並。日照時間は東北日本海側で多く、東北太平洋側で少ない。



最近1週間の平均気温、降水量及び日照時間の平年差（比）